

村田教授が芸術院会員に

重厚で温かみある画風に評価



作品制作で筆を取る村田教授。鎌倉市の自宅

洋画家で金沢学院大学美術化学部の村田省蔵教授が十二月十五日付で日本芸術院会員に発令されることになりました。日本の原風景を重厚で温かみのある画風で描き、高く評価されました。芸術院会員に名前を連ねる本学教員は、陶芸の大橋長左衛門美術化学部長、日本画の中路融人教授に次いで三人目です。

村田教授は金沢市出身で鎌倉市在住。石川県出身の洋画家で芸術院会員になるのは四人目であり、古里石川には感性に訴える叙情の風景が多く残っている。今後、後もそれを題材に集大成の作品を制作していきたい」と抱負を語っています。



「どうぞつかい」を演じる演劇部員。金沢市民芸術村

不確かな記憶で 予期せぬ展開へ

演劇集団 Rough 公演
金沢学院大学演劇部演劇集団 Rough(ラフ)の第九回公演「どうぞつかい」は十一月十一日、十二日、金沢市民芸術村で行われました。十五年ぶりに再会した同級生が昔話に花を咲かせるうち、それぞれの不確かな記憶が絡み合うことで、ありもしない教師殺人事件を作り上げるといふ、ユニークなオリジナル脚本で来場者を楽しませました。

自分史に見る世代性

金沢学院大学基礎教育機構の第八回講座「自分史に表された『昭和の人生』」は十二月二日、3号館で行われました。中西茂行教授「写真左」が、大正から昭和初めに生まれた世代が書いた自分史をテーマ別に紹介し、満州での生活や戦争体験などの記憶が原風景や転機となっていくことなど、現代性の特徴を解説しました。

東高校が学校説明会

来年度入試に向けた金沢学院東高校学校説明会「写真左」は十一月二十五日、金沢市観光会館で開かれ、参加した生徒、父母に東高校の教育方針、新校舎の建設計画などを説明しました。石田毅士郎校長が「創造」を教育理念とし、四つのコースで一人一人の個性を育てる」と述べました。

アジア大会6位

重量挙げ 新谷さん、日本新で入賞



金沢学院職員の新谷義人さん「顔写真」は、カタールのドーハで開かれているアジア大会の重量挙げ男子77kg級に出場し、スナッチ、ジャークのトータルで自己持つ日本記録を更新し、6位に入賞し、強化する方針です。

宮澤氏が軽妙な語りで魅了

経営情報学部 特別講義 ツエーゲン連携で初事業
金沢学院大学経営情報学部の特別講義は十一月三十日、4号館講堂で行われ、



サッカーの面白さについて話す宮澤氏(右)の講堂

サッカー北信越リーグのツエーゲン金沢でスーパードライザーを務める宮澤ミシエ氏が「これからのサッカービジネス」と題して講演しました。本学とツエーゲン金沢の産学連携による初めての事業として開催されました。



上野誠教授

万葉歌の魅力解説

文学部特別講義 金沢学院大学文学部の特別講義は十二月一日、4号館講堂で行われ、奈良大学のの上野誠教授が「働く万葉」と題して、万葉集の歌の魅力を解説しました。上野教授は、万葉歌から類推できる奈良期の農村の風景や貴族、役人、農民の姿を説明しました。また、田の立地や形態を表現した言葉、耕作や稲の状況を指す言葉を取り上げました。



後、大学進学状況や部活動の実績、奨学金制度などを説明しました。個別面談も行われました。

発行・広報室